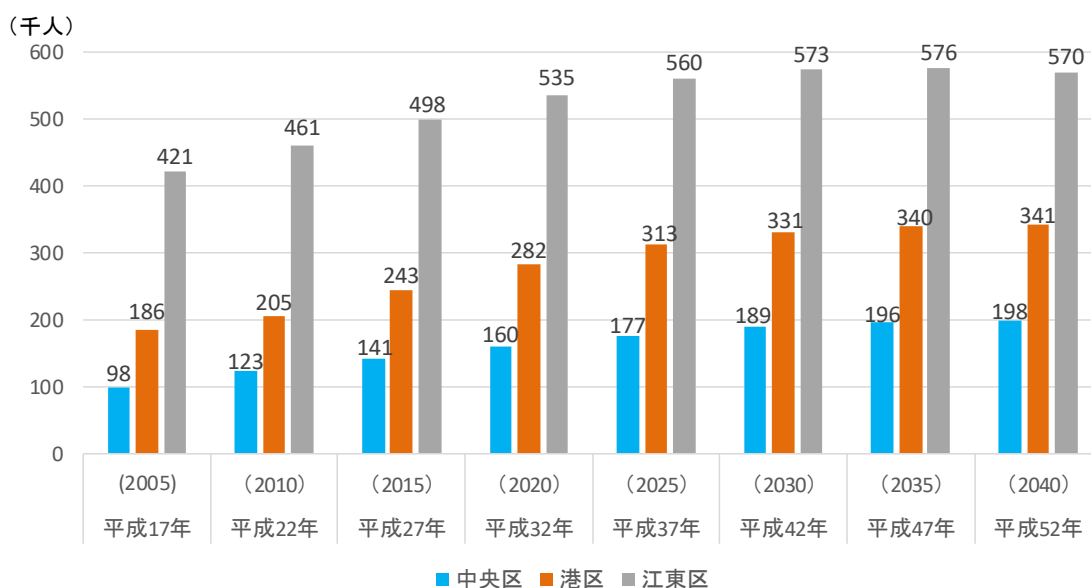


## 4 人口の動向

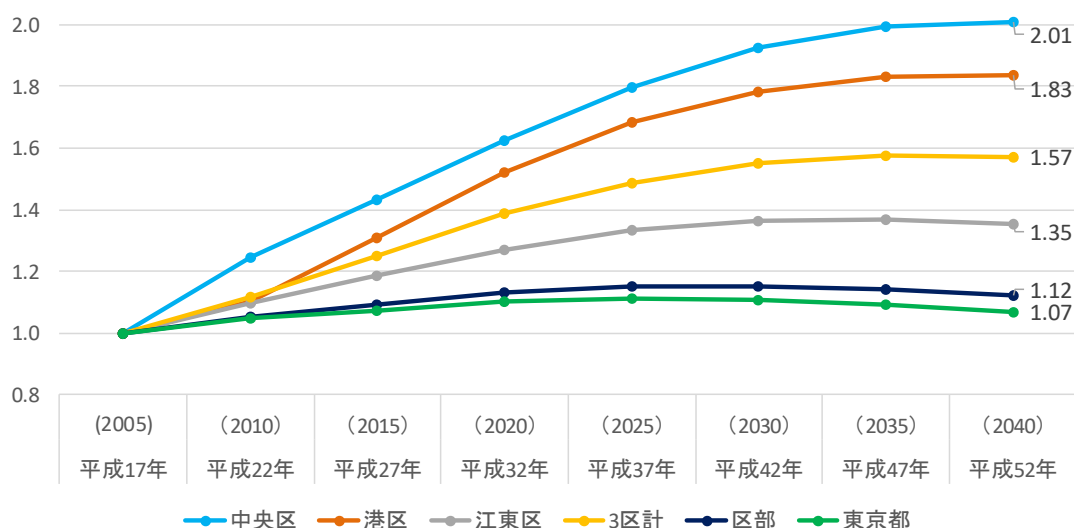
### (1) 関係区の人口

計画区域に当たる中央区、港区、江東区の人口は増加傾向にある。東京都による将来人口推計によると、中央区及び港区は平成 52 年(2040 年)、江東区では平成 47 年(2035 年)まで人口増加が続き、平成 17 年(2005 年)対比では、平成 52 年(2040 年)には中央区で 2.01 倍、港区で 1.83 倍、江東区では 1.35 倍になると推計されている。

<中央区、港区、江東区の人口の推移>



平成17年 = 1.0

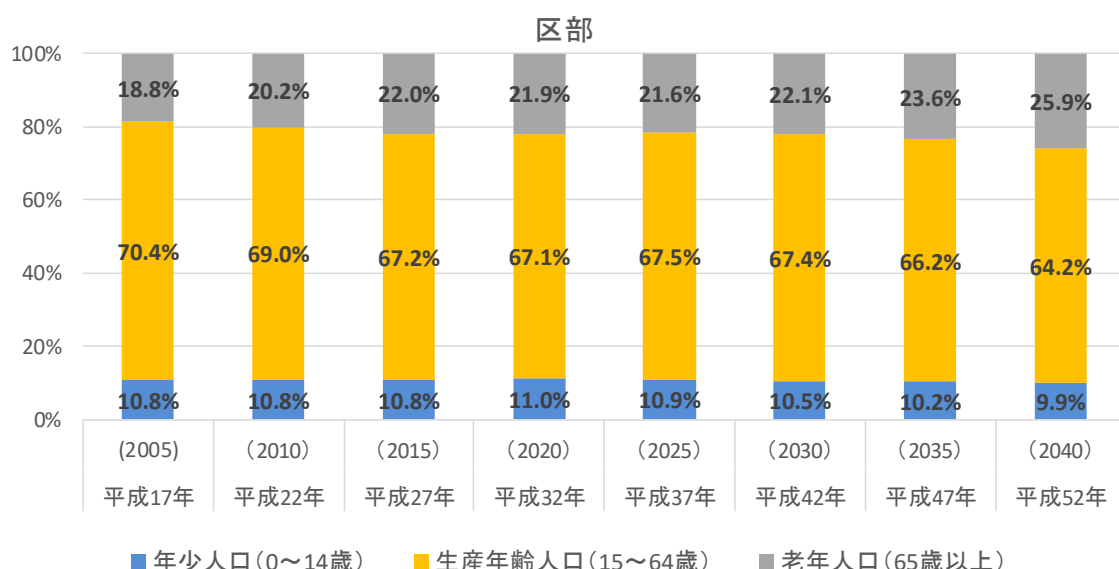
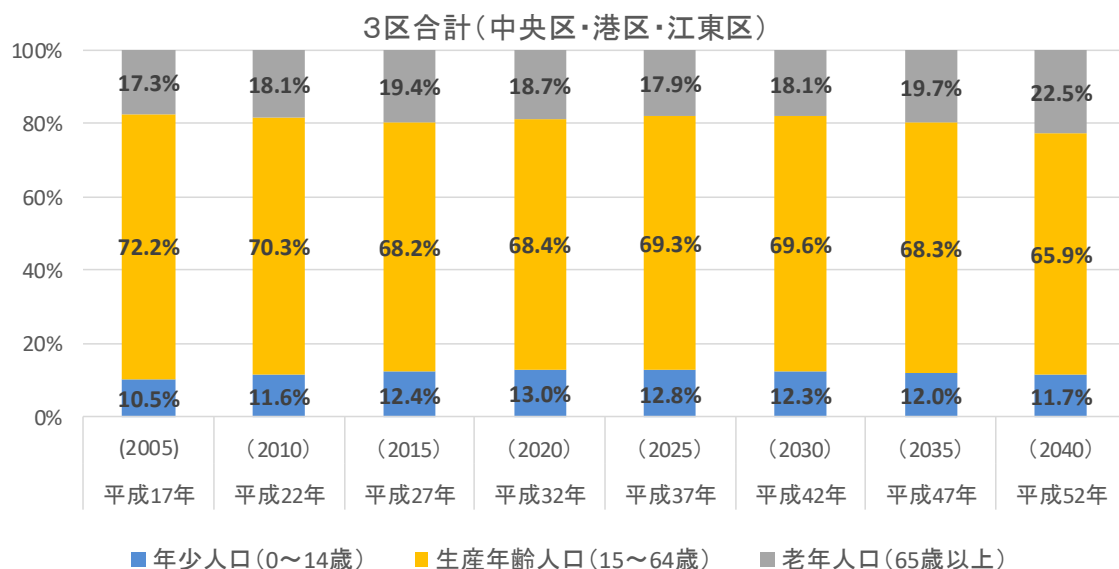


出典：総務省統計局「平成 17 年、22 年、27 年国勢調査結果」、

平成 32 年以降は「東京都区市町村別人口の予測－統計データ－（平成 29 年 3 月）」の予測値

年齢構成を見ると、3区では、年少人口の割合は平成32年（2020年）まで増加傾向に、生産年齢人口の割合は平成42年（2030年）まで増加傾向にある。老年人口の割合は平成37年（2025年）まで減少傾向にあるが、以降は増加し平成52年（2040年）で22.5%を占めると推計されている。また、23区全体と比較すると、年少人口及び生産年齢人口は2%程度高い割合で推移していくと推計されている。

<中央区、港区、江東区の年齢構成比>



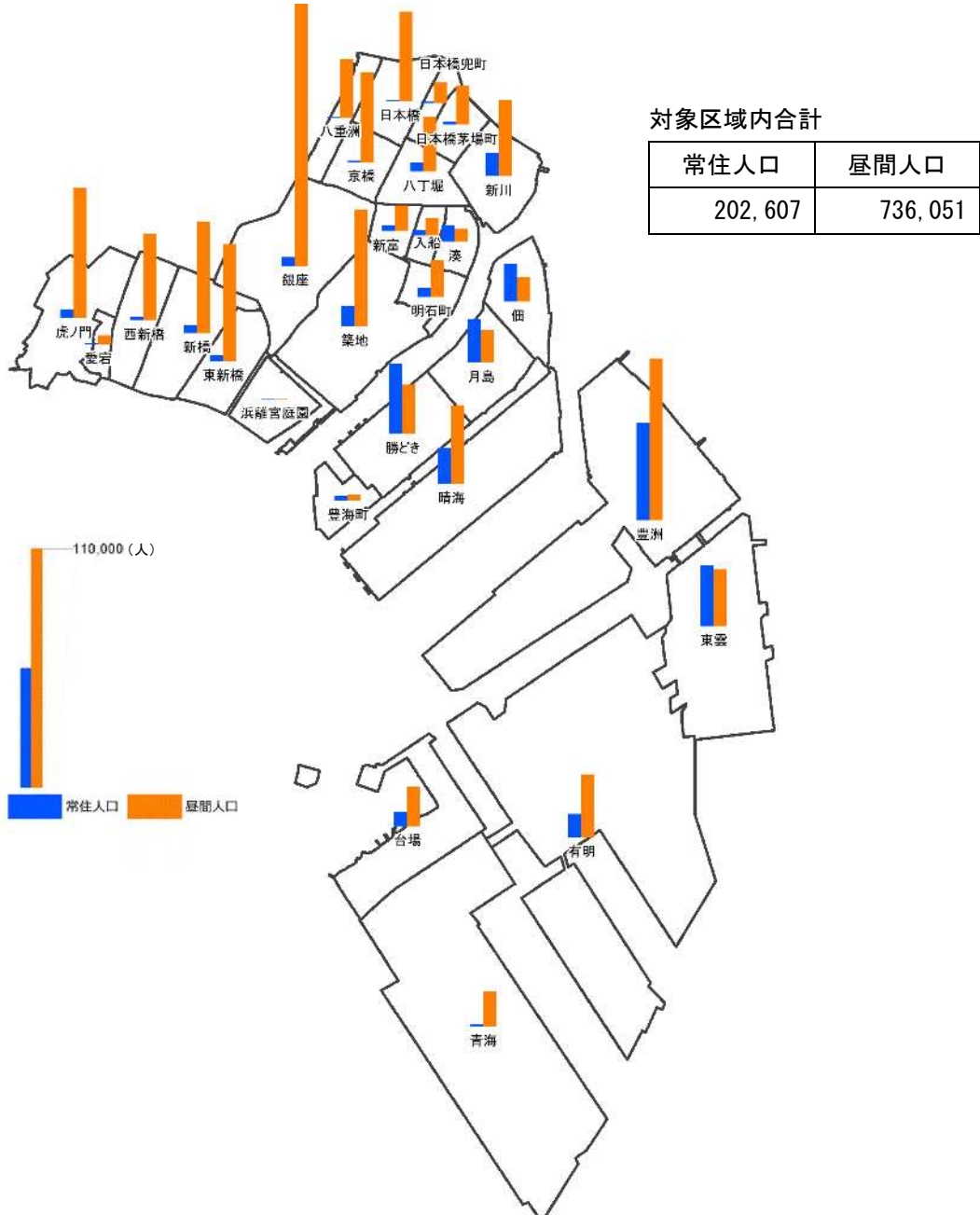
出典：総務省統計局「平成17年、22年、27年国勢調査結果」、  
平成32年以降は「東京都男女年齢（5歳階級）別人口の予測（平成30年3月）」の予測値

## (2) 計画区域内の人口

計画区域内の常住人口は約 20 万人、昼間人口は約 74 万人となっている。昼間人口は常住人口の 3.6 倍となっており、地域外からの流入が多い。

なお、地域別に見ると、勝どき、月島、佃、東雲のように昼間人口よりも常住人口の方が多い地域もある。

<計画区域の常住人口・昼間人口>



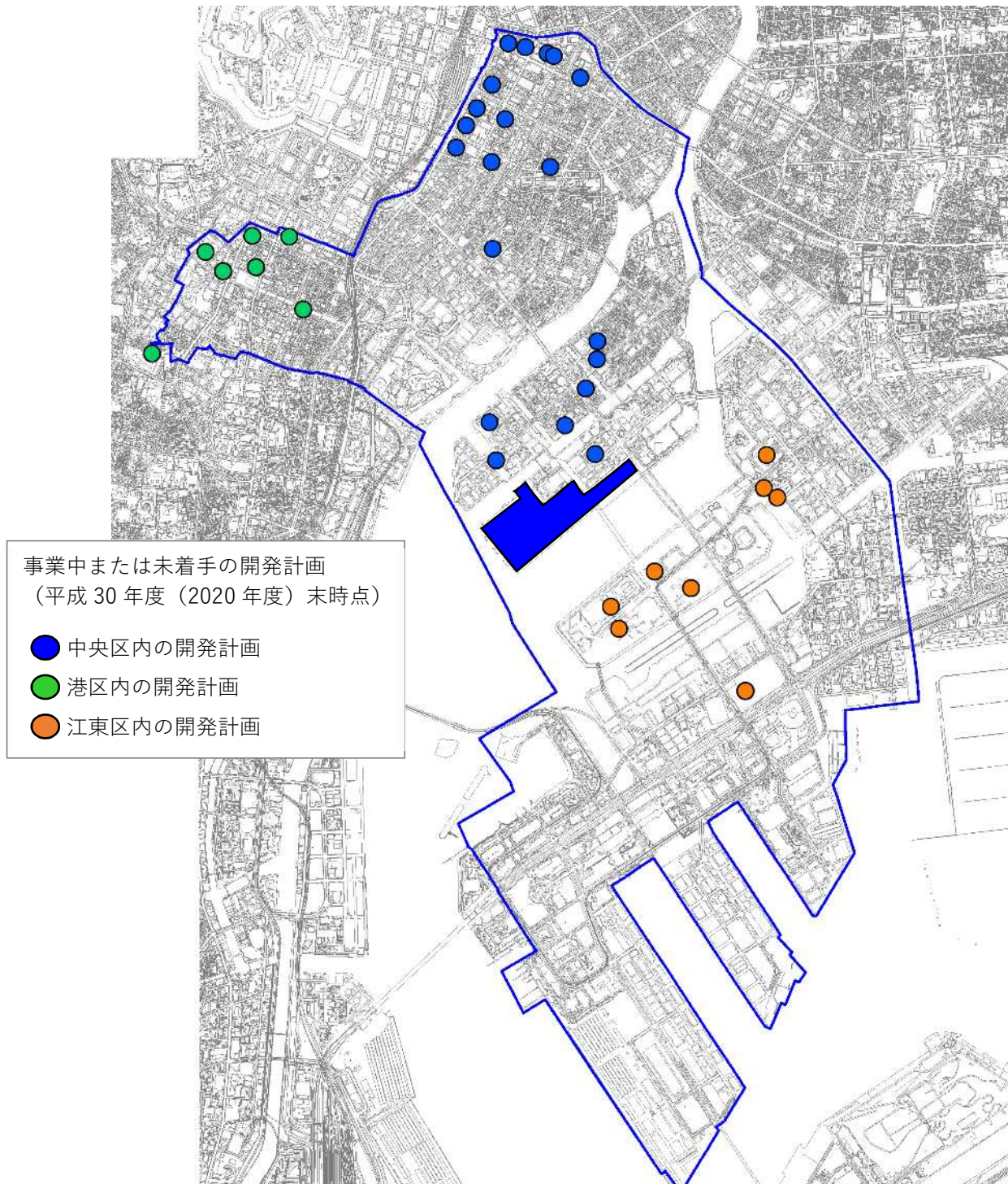
出典：常住人口：各区の住民基本台帳、平成 31 年 1 月現在

昼間人口：平成 27 年国勢調査

昼間人口とは、ある地域に常住する人口から、その地域から通勤者又は通学者として流出する人口を差し引き、その地域へ通勤者又は通学者として流入する人口を加えた人口である。

計画区域内では、八重洲や虎ノ門、月島等で開発が予定されており、将来的には常住人口、就業人口ともに10万人前後の増加が見込まれる。今後、公共交通に対する需要が更に増加することが想定される。

<開発計画図>

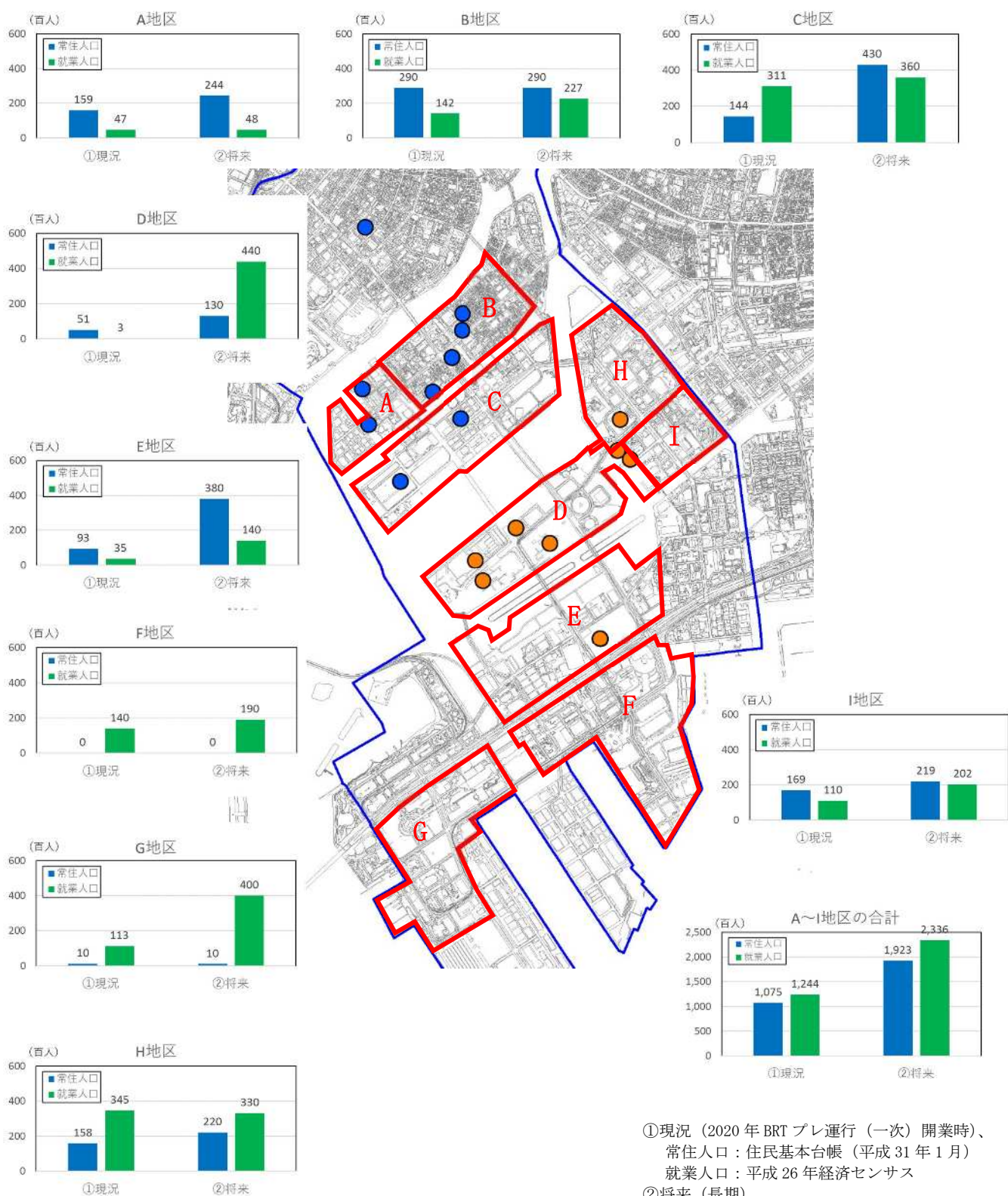


出典：各区の提供資料から作成



## <臨海部の開発事業等による常住人口及び就業人口の見込み>

想定年次：①現況（2020年BRTプレ運行（一次）開業時）、②将来（長期）



①現況（2020年BRTプレ運行（一次）開業時）、  
 常住人口：住民基本台帳（平成31年1月）  
 就業人口：平成26年経済センサス

②将来（長期）  
 常住人口：A、Bは①+「中央区将来人口推計」の月島の伸び率、C・Dは「豊洲・晴海開発整備計画」の開発フレーム、E~Gは「臨海副都心まちづくり推進計画」、H、Iは東京都及び江東区の資料による（H27）

